

連結決算ハイライト (IFRS)

	2020年 (第2四半期)	2020年 (通期予想)
売上収益	1,578億円 (前年同期比 4.2%増)	3,130億円
売上総利益	1,169億円 (前年同期比 3.6%減)	2,360億円
コア営業利益	345億円 (前年同期比 7.2%増)	600億円
四半期利益	278億円 (前年同期比 42.2%減)	440億円

当第2四半期のポイント

国内事業は、ロミプレート、リツキシマブBS、ジールスタなどの売上が伸長しましたが、昨年10月および本年4月に実施された薬価改定の影響に加え、オーソライズドジェネリックへの切替えを進めたネスブや、花粉飛散量減少や新型コロナウイルス感染症による通院自粛などの影響を受けたアレロック・パタノールなどの売上が減少し、合計83億円の減収となりました。

一方で、海外事業は、順調に市場浸透が進むグローバル戦略品CrysvitaやNourianz、中国で必須医薬品リストに掲載されたRegparaなどの売上が伸長し、合計151億円の増収となりました。

グローバル戦略品の販売費・上市準備費用の増加などにより経費は21億円増加しましたが、それを上回る売上総利益の増加により、コア営業利益は23億円の増益を達成しました。

四半期利益については、昨年計上した協和発酵バイオ株式売却益の約300億円が本年は無いことから、203億円の減益となりました。

会社情報・株主メモ (2020年6月30日現在)

会社概要

会社名 協和キリン株式会社
所在地 〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目9番2号
(大手町フィナンシャルシティ グランキューブ)
設立 1949年7月1日
資本金 26,745百万円
従業員数 5,425人 (連結ベース)
事業内容 医療用医薬品の研究・開発・製造・販売および輸出入等

役員

代表取締役社長	宮本 昌志 *1	常勤監査役	小松 浩
代表取締役副社長	大澤 豊 *1	常勤監査役	上野 正樹 *3
取締役専務執行役員	三箇山 俊文	監査役	新井 純 *3
取締役	横田 乃里也	監査役	井上 雄二 *3
取締役	瓜生 健太郎 *2	監査役	桑田 啓二
取締役	森田 朗 *2		
取締役	芳賀 裕子 *2		

*1 執行役員兼務 *2 社外取締役 *3 社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数 987,900,000株 株主数 31,231名
発行済株式の総数 540,000,000株

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
キリンホールディングス株式会社	288,819	53.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	42,239	7.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	24,611	4.58

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
および電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031
(受付時間) 土日休日を除く9:00~17:00
公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、やむをえない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の当社ウェブサイト
<https://ir.kyowakirin.com/ja/>
証券コード 4151

当社ウェブサイトはこちらから スマートフォンをお使いの方は
右記のQRコードから当社WEBサイトにアクセスいただけます。



KYOWA KIRIN REPORT 2020

2020年1月1日 ▶ 2020年6月30日

証券コード：4151



協和キリン株式会社 代表取締役社長 宮本 昌志

グローバル・スペシャリティファーマとして、 世界の人々の健康と豊かさに貢献してまいります。

欧米での自社創製品の発売を2018年に達成した当社は、2019年4月より新たなグローバルマネジメント体制「One Kyowa Kirin」への変革を進めつつ、世界中の社員が一丸となってグローバル戦略品の価値最大化に取り組んでいます。目指す姿にはまだ道半ばではありますが、確実に成果や成長が見えてきており、社長として非常に楽しみに、また頼もしく感じています。

当社らしい特徴を持っているグローバル戦略品は着実に成長しつつあります。X染色体連鎖性低リン血症治療薬Crysvita（日本製品名クリスビータ）は、北米、欧州中東地域、日本において順調に売上を伸ばしており、6月には米国で腫瘍性骨軟化症の適応を追加取得、7月には欧州において成人への適応追加に対する推奨勧告を受領、さらには中国をはじめとするアジア/オセアニアの患者さんにお届けする準備も順調です。日本・米国で販売中の皮膚T細胞性リンパ腫治療薬Poteligeo（日本製品名ポテリジオ）は、ついにこの6月にドイツでも発売となりました。今後も順次販売国を拡大してまいります。昨年10月に米国で発売したパーキンソン病治療薬Nourianz（日本製品名ノウリアスト）も、素晴らしい立ち上がりを見せています。

第2四半期までの業績は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大などの影響を受けましたが、これらグローバル戦略品の成長を受けて増収増益を達成しました。しかしながら、この状況の継続が想定されることもあり、業績予想を下方修正させていただきました。世界的に厳しい環境下ではあるものの、修正計画を達成すべく全従業員が力を合わせ、この難局を乗り越える所存です。そして新しい価値の創造により世界中の人々の健康と豊かさに貢献し、株主の皆さまのご期待に応えることができるよう、これからも全社で取り組んでまいりますので、引き続き皆さまの温かいご支援・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

まずは、新型コロナウイルス感染症が収束しない中での自然災害という未曾有の状況下で、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、罹患された方々および被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、治療や復旧活動の最前線においてご尽力されている医療従事者をはじめとした関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大による 事業への影響と協和キリンの取り組み

(2020年6月30日までの情報に基づき作成)

経営環境への影響と取り組み状況

- **製造・サプライチェーン**
製品供給が滞ることのないよう、感染予防対策を十分に行いながら業務を遂行しています。現時点で原料調達や製品供給に重大な問題はありません。
- **営業・MSL（メディカル・サイエンス・リエゾン）**
情報提供活動はデジタルを活用し、原則リモートで実施しています。安全性情報の収集なども医療機関の意向に配慮しながら対応しています。
- **研究・開発**
研究所ごとに詳細なルールを設定し、研究活動を継続しています。開発（臨床試験）については、各国のガイダンスに則り、医療機関の意向にも配慮しながら実施しています。現時点で開発パイプラインへの重大な影響は出ていません。
- **バックオフィス**
国によって状況は異なりますが、リモートワークをベースに柔軟な働き方を推進しています。

2020年12月期業績への影響（業績予想の修正）

売上収益	3,270億円	➔	3,130億円	（4%減）
コア営業利益	650億円	➔	600億円	（8%減）
当期利益	490億円	➔	440億円	（10%減）

その他各種支援の一例

- 治療用医薬品の研究支援のための原薬提供
- 医療従事者が行うボランティア活動への支援
- 医療現場への個人用保護具の提供をはじめとする各種寄付（ジャパンハート、AmeriCares、スペイン赤字、中国南山財団、Agency for Integrated Care等）